

安居っ子だより

令和3年3月15日 No.34



〒918-8076 福井県福井市本堂町 4-12
Tel: (0776)37-1004 Fax: (0776)37-1582
E-mail: ago-e@fukui-city.ed.jp

ご卒業 おめでとう ございます



マスク、思いやり、



手洗い、換気



卒業式
特別号



式辞

1月の大雪による臨時休業が遠い昔のように感じ、安居の野山の草木は一斉に芽吹き、本格的な春の訪れを感じさせます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただ今、一人一人に手渡した卒業証書は、6年間の小学校の課程をすべて修了したことを証明するものです。もちろん、みなさん一人一人の努力と精進の賜ですが、その成長の過程には、お父さんお母さんをはじめとする、家族や地域の方々の支えがあったことを忘れず、いっしょに思い出したいと思います。皆さんの名前と一緒にご両親の名前が書いてあると思ってください。今日帰ったら、家族の皆さんにその卒業証書を見せ、是非、自分の言葉で感謝の気持ちを伝えてください。

さて、皆さんの安居小学校で過ごした6年間はどのようなものでしたか。

特に、この6年生という学年は、周りから期待され、レベルの高さや責任を求められる1年だったことと思います。毎日の集団登校では、後ろについてくる一年生をいつも気遣い、振り返っては立ち止まる姿が私の目に焼き付けられています。本当にありがとうございました。しかし、最高学年として力を発揮すべき今年は、新型コロナウイルスという思わぬ障害により、思うようになかったことが多かったと思います。2月末に行われた「六年生を送る会」で紹介された「今年、コロナ禍で、いやだったこと、がまんしたこと」には、「マスク生活」「しゃべれない」「ひたすら消毒」「友だちと遊べない」「学校行事がへった」「いろいろ変わりすぎ」「がまんだらけ」など、皆さんの我慢していた様子が挙げられ、その一方で、「今年、コロナ禍でもがんばったと思えること」では、「マスク」「人と距離を取った」「寒くても手ががさがさになっても、手洗いをした」「コロナ禍でもできる行事をつくりだした」「自分たちで考えて行動するようになった」「家でよく自主勉をした、手伝いをした」「がまんした」「不満を言わなかった」が挙げられました。このことから分かるように、コロナ禍の世の中でも、皆さんは、「コロナだからできない、コロナだから我慢する」だけではなく、十分な対策を取った上でいかに工夫して目標に向かって挑んでいくという突破力を身につけてきたようです。

10年前の東日本大震災からは、自然の力の偉大さ、災害に備える事の大切さを学び、一人ではがまんするのではなく、みんなで助け合うことの大切さを学びました。おそらく、将来、皆さんのことを「コロナ世代」と呼ぶような言葉が生まれたときには、それは、耐え忍びながらも、刻一刻と変化する情報から確かなものを選び取り、より賢く判断し行動することができる力を備えた、日々の変化に柔軟に、臨機応変に対応することができる人々を表す言葉になるでしょう。このことは、コロナだけではなく、これからの変化の時代に大いに役立つ力でもあります。これからAIやロボットといったテクノロジーが次々と結びついて、これまでと違う時代がやってきます。その変化の波に乗り自分革新を起こすためには、先ほど述べた、「確かな情報分析」「判断」「行動」といった力が必要不可欠になります。背面の掲示板に掲げられた卒業生の皆さんが想像した「未来予想図」のような社会が、間もなくやってきます。皆さんはそのまっただ中に生きていく地球人です。皆さんは、四月から、中学校へ進学し、さらに自分の力を引き出し、高めていく大事な時期を過ごすことになります。ここまで成長してきた自分の力を信じ、堂々と希望の一步を踏み出してください。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業 誠におめでとうございます。今日のこの佳き日、見違えるほどに成長したお子様の姿を、万感の思いで見守っておられることと存じます。皆様方からの温かいご理解とご支援により 本日を迎えることができましたこと心からお礼申し上げます。お子様方のますますのご成長を教職員一同、心よりお祈り申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ、たくさんの思い出を胸に、安居小学校を巣立つときが来ました。この安居小学校で培った力を信じ、胸を張って新しい時代を切り開いていってください。皆さんの健康、発展と幸せを祈り、式辞といたします。

令和 3年 3月15日

福井市安居小学校 校長 田中 範継

